令和７年度　福井県立福井商業高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 **教育課程 学習支援 研修**	①分かる授業を推進するため、公開授業週間を実施し、教材研究・授業研究を充実させ、支援の充実と研究・工夫を継続的に行う。 ②生徒の学力向上を図るため、小テストなどを実施し、課題の取組状況を確認する。さらに成績不振の生徒に対しては、補習等で時間をかけて丁寧に支援する。 ③タブレットを利用したオンライン授業を実施し、学級閉鎖時等学習に遅れがないように支援をする。	・公開授業週間を年2回実施し授業改善に活用している。教員のアンケート結果から、「わかる授業」について「大変良い」「おおむね良い」は合わせて96.8%、また生徒の授業への理解度アンケート結果からも、「大変良い」「おおむね良い」を合わせて 92.3%となっており、成果がうかがえる。 ・教職員の小テストの実施等は、「大変良い」「おおむね良い」を合わせて93.5%となっており、目標値を上回った。また生徒の課題への取り組みについても98.6%と、与えられた課題に意欲的に取り組んでいる。 ・学級閉鎖時には、オンライン授業を実施するなど学習支援に取り組んだ。	・わかる授業を推進するために、お互いの授業を積極的に公開し、さらに相互研鑽を積む。電子黒板等のICT機器を積極的に活用し学習支援の充実を図る。 ・生徒の学力向上を図るため、各教科、学年会等で十分検討し、個別指導やICT機器の活用を通して丁寧に指導する。生徒の家庭学習の充実を今以上に呼びかける。 ・学級閉鎖など緊急時にも学習を継続できるように、オンライン授業やデマンド授業等即座に対応できる体制を整備していく。
2 **生徒支援**	①　全教員による身なりチェックを各学期3回実施する。定期的なチェックだけでなく、徹底した事前・事後支援を行う。また、交通安全支援においては、事故防止の支援と同時に、自他の生命を尊重する精神を培う。 情報モラル教育を通して、よりよい人間関係の構築をめざし、倫理観を養う。 ②生徒会活動を通して、自主自律の精神を養う。また、保護者との相互理解を深めながら部活動の活性化を図るとともに勉学との両立を目指し生徒の心身の向上を促す。	・「身なり指導」「交通安全教育」「情報モラル教育」のすべてにおいて、目標値を大きく超えた良好な成果があがっている。 ・登下校時の自転車事故を減らすために、保護者・地域・警察と連携を深め、交通安全支援を徹底する必要がある。 ・5月に交通安全教室を実施し交通安全、生命尊重の意識向上を図った。 ・交通事故および不審者遭遇時の対応について、今後も周知徹底を図りたい。 ・スクールサポーターによる「ひまわり教室」を7月に実施した。SNSに関する内容で情報モラルについての話を聞くことができた。また、保護者と生徒へのパンフレット配付などを通して情報機器やSNS利用に関する啓発活動を行った。 ・相談室と綿密に連携しながら、いじめ等の生徒間トラブルに対処した。 ・学校行事では生徒の満足度は、ABの割合が目標値を超える96.1%であり高い数値となった。学校祭や遠足など、感染対策を徹底しながら、よりよいものになるよう生徒と教員が一体となって作り上げ高い達成感を得られた結果であろう。保護者の満足度は　72.0%であり、目標の80%に届いていない。今後は、体育祭や文化部発表会等保護者の参観やSNS配信等を検討し、生徒の活動を広く認知していただくよう工夫する必要がある。	・「身なり指導」については、今後も朝の登校指導などで粘り強い支援を行っていく。 ・交通社会の一員としての意識をさらに高め、自他の生命を尊重するという理念を育てるための地道な支援を今後も継続して行う。自転車通学生に対しヘルメット着用を徹底し交通安全への意識高揚に努める。来年度も5月に2年生対象に交通安全教室を計画している。 ・来年度も、SNS事業者による情報モラル講演会を7月に予定している。保護者とも連携しながらスマートフォンやSNS利用等安全な使用について継続した支援に取り組む。 ・来年度も担任や相談室と連携をしながら、問題の早期発見に努める。 ・学校行事については、感染予防を徹底しながら、企画・運営や実施内容を工夫し、生徒、保護者が充実感、達成感を得られるよう取り組んでいきたい。 今後は、学級独自の活動ができるLHの時間を確保したり生徒会活動等自主的・主体的な活動を増やしたりするなど活動の幅を広げたい。 部活動においても、より活性化するよう配慮していきたい。また、ホームページのさらなる充実や一斉メール、SNSによる配信など、保護者の方に、学校行事などの生徒活動をご理解いただく機会を増やす工夫を検討していきたいと考える。
3 **進路支援**	①生徒の主体的な進路実現のために適切な支援を行う。 ②進路に関する情報を充実させ、生徒の実態に即して提供する。	・ABの回答結果は、生徒・保護者共に学年が上がるにつれて、その数値が高くなっている。3年生においては、どちらも90%を越えており、取り組みの成果がうかがえる。 ・1年生に関しては、生徒・保護者共に目標値に達しておらず、今後将来の進路を考えるための方策が必要である。	・来年度も、2・3年生に関しては、今年度同様、学年に応じた適切で計画的な進路支援を行っていきたい。 ・1年生に関しては、生徒・保護者が、将来の進路を考えるにあたり、3年間を見通した進路支援を提示し、本校の進路支援について啓蒙活動を行う。
4 **美化支援 保健管理**	①清掃の支援や監督を行い生徒が環境美化に取り組む姿勢を育成する。また、ゴミ分別の支援を行い、保護者・生徒とともにリサイクル活動の推進を図る。 ②保健調査や定期健康診断の結果をもとに、適切な保健支援を行う。感染症予防等のプリントを教室に配布するなどの啓発活動により、保健知識の定着を図る。	・教員の清掃支援、保健支援とも目標値を大きく上回った。生徒・保護者についても目標値を上回り、校舎内外の環境美化、個人の健康管理を含む保健指導に関心が高いことが推察できる。 ・自己の健康管理意識の高い生徒が多く見られる。健康管理・感染症予防の支援を通して、さらなる保健知識の啓発に努めたい。	・学校環境の美化は健康を維持するためにも重要であるという生徒の意識を育てたい。 ・ゴミの分別を徹底するためのより効果的な対策を考え、各クラスに今後とも周知していきたい。 ・熱中症やインフルエンザ等の感染症予防について、次年度も健康管理や予防対策を啓発していきたい。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 保護者との連携 教育環境の整備	①PTA活動や学校行事に関する情報発信を行い、保護者と教職員の連携を深めるとともに、各種学校行事への保護者の積極的な参加を促す。 ②生徒の健全育成・進路実現のために、保護者の研修の機会を充実させるとともに、生徒の意見も積極的に採り上げ、教育環境の整備を図る。	・保護者に対するアンケート項目「教職員と保護者との連携がとれているか」の回答は、「大変よい」「おおむね良い」を合わせて87.2%と昨年より上昇している。ホームページや一斉メールなどをより有効活用し改善していきたい。 ・「教育環境の整備に努力しているか」という教職員への質問については「大変良い」、「おおむね良い」を合わせて98.4%の結果が得られた。今後も、高水準を維持できるよう努めたい。	・安全面や衛生面に配慮しながら多くの保護者の方が学校行事に参加できる方法を検討したい。 ・保護者の方への配信や広報の方法を検討し、生徒の活動の様子を知る機会を増やし連携を深めたい。 ・教育環境を整備する為には、保護者、教職員、生徒の連携が不可欠である。学校行事等を通してより良い教育環境が構築できるよう努めたい。
6 読書支援	①新入生図書ガイダンス、全校一斉読書タイムなどを行い読書への関心を高める。また、カードを利用した読書マラソンにより継続して生徒が読書に親しむように努める。 ②図書委員会の活動を充実し、各種の取組や委員会だより・新着図書案内などの広報活動により図書館利用の拡充を図る。また新聞記事の紹介・掲示を通じて社会情勢に関心を持たせるよう啓発する。	・全校一斉読書タイムは「非常に良い・おおむね良い」の割合が目標値を超え、97.0%の生徒が評価している。 ・広報活動や読書啓発は、保護者から88.2%の高い理解を得ている一方、生徒からは昨年、一昨年に比べ評価は上がっているものの、57.5%と5割にとどまっている。 ・「図書館の利用状況」は学年が上がるにつれ下がっており、学校全体では40%前半にとどまっている。 生徒のタブレット利用が浸透したため調べもののために図書室を利用する生徒が減ったことも一因と考えられる。	・自己実現・自己啓発・話題の本を充実させ、さらに読書啓発をすすめたい。 ・図書委員会の活動である新着書籍や新聞記事の紹介などの地道な啓発活動を継続し、図書館利用者の増加につなげたい。 ・新入生図書ガイダンスは生徒の読書活動に有益であることがわかる。来年度もガイダンスを実施し、生徒に読書の楽しさを伝え図書館利用を促したい。
7 教育相談	①相談室連絡会、学年会、はぐくみ委員会など全校協力体制のもと、問題の早期発見解決に努める。 ②生徒へのアンケート、生徒理解のための研修会などを通して、生徒を適切に理解できるよう努める。	・学年会や教育相談、カウンセラーと情報を共有し、必要に応じて外部機関とも連携を図りながら支援を進めてきた。早期に対応することで効果的な支援にもつながった。 ・通級、研修や個別相談に於いて、Q－Uやアセスなどデータと教員の観察にもとづく情報をもとに、生徒理解が深まった。 ・LHなどでピアサポートやレジリエンス活動に学年全体で取り組むことができ、生徒も教員も支え合う温かい関係・環境の構築の一歩となった。 ・教育相談に関する教員の研修会を年に1回実施し、人間関係の構築や生徒理解のスキルなど向上に努めた。	・相談室が関係教員、機関、保護者との円滑な連携をコーディネートできるよう、日々専門力の向上に努める。 ・生徒支援について、教職員の理解や協力が得られるような体制づくりに努める。 ・教職員の生徒支援の課題を分析し、適切で参加しやすい研修を企画し、生徒支援の資質向上に努める。 ・教職員の活用しやすい生徒支援の予防的プログラムの提供をする。
8 社会人への準備	①学校生活の様々な場面を活用して自分の生き方を真剣に考え人生を主体的に生きる態度の育成に努める。 ②教育活動全体を通して、ビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成を図る。	・社会情勢などに関心を持つ生徒が83.1%で、特に3年生は高く91.6%と進路を意識した活動が見受けられる。タブレットを活用し様々な情報を得ているが、情報収集力とともに多くの情報を論理的に取捨選択できる情報判断力をつけさせる必要がある。 ・学校行事に対する取組については、意欲的・主体的に参加し98.6%の生徒が、学年を問わず行事等の活動に充実感を感じている。特別活動の支援と教科学習支援とのバランスを配慮することが必要である。 ・清潔感のある身だしなみを心がけている生徒は99.2%とほとんど全員である。今後は身なりチェックの必要のない学校を目指し、積極的な生徒支援を展開していきたい。	・ビジネスマナーやコミュニケーション能力の重要性については、「ようこそ先輩」等外部講師等を通じて実際に実感させることが重要である。インターンシップや探究活動等で体験学習を充実させ、振り返りなどを一層充実させていきたい。 ・生徒の主体的な学びを充実させていくために、社会的な問題やニュースに興味・関心を持つよう、ロングホームや主権者教育の充実を図り向上させていきたい。 ・学校行事など様々な場面を活用し、生徒の主体的な活動を取り入れ、さらなる充実を図りたい。
9 業務改善	①ノー残業デーを導入し、会議・行事の精査、簡素化、削減を図る。 ②本校「部活動に係る活動方針」に則り、効果的、効率的、合理的な部活動を目指す。	・ノー残業デーを在校時間管理表に設定したり、毎日の欠席連絡をデジタル化したりするなど学校業務改善に取り組んでいる。 ・すべての部活動で「年間計画」を作成しており、効果的、効率的、合理的な持続可能な運営を行っている。	・来年度以降も働き方改革を推進し、学校業務改善及び勤務時間管理を積極的に進めたい。 ・本校「部活動に係る活動方針」に則り、効果的、効率的、合理的な練習方法を取り入れ持続可能な運営を目指したい。